

## 第9回日野市生物多様性地域戦略策定委員会 議事録

日時：平成29年10月24日（火）18：00～20：00

場所：日野市役所 505会議室

出席委員： 亀山委員	東京農工大学名誉教授 ※委員長
小倉委員	東京農工大学名誉教授
鶴田委員	
濱田委員	
井上委員	
森川委員	
片山委員	
篠田委員	東京農工大学
中西委員	樹木・環境ネットワーク協会
白石委員	地域戦略室
高木委員	緑と清流課
檜山委員	緑と清流課
山本委員	都市計画課
岡澤委員	区画整理課
富田委員	都市農業振興課
小島委員	健康課
清水委員	学校課
大日向委員	生涯学習課

※敬称略

## 次第

1. 開会・あいさつ
2. 議事
  - (1) 前回議事への対応
  - (2) 日野市生物多様性地域戦略（案）の確認
  - (3) 日野市生物多様性ホットスポットマップについて
  - (4) 生物多様性地域戦略の名称について
- 3 その他

## 配付資料

資料 1：前回議事への対応

資料 2：日野市生物多様性地域戦略（案）

資料 3：日野市生物多様性ホットスポットマップの検討

資料 4：生物多様性地域戦略の名称について

参考資料 1：第 8 回日野市生物多様性地域戦略策定委員会 議事録

参考資料 2：日野市生物多様性地域戦略（案）の修正内容

## 前回議事への対応

※事務局より資料1および参考資料1に基づき説明。

## 日野市生物多様性地域戦略（案）の確認

◎日野市の生きもの（資料2：P23～46）

※事務局より資料2および参考資料2に基づき説明。

### 【井上委員】

資料2のP32について、ミナミメダカは遺伝子検査でないと特定できないため、載せるとすれば「野生メダカ」という表現になるのではないかと。また、カジカはふれあい橋の下で5月に卵が採れているので、生息していることは間違いない。数が多いわけではないため、より適切なものに差替えるのであればそれで構わない。

### 【亀山委員長】

カジカは上流の魚ではないと思う。自分が子供の頃は、日野市にはカジカがたくさんいて、それが減ったのであって、上流の魚であるというのはおかしい。ホトケドジョウも昔はたくさんいたが、減ってきている。

### 【森川委員】

資料2のP27について、「一方で河川環境には外来種のシナダレスズメガヤや、～」とあるが、シナダレスズメガヤが繁茂した原因を入れてほしい。一番の原因は国交省の河川工事だと思う。

資料2のP30について、「朽ち木を餌として利用するナガゴマフカミキリや、朽ち木に生えるキノコを餌とするルリオオキノコ～」とあるが、「朽ち木」という単語は前に出ているので不要である。「ルリオオキノコ」は「ルリオオキノコムシ」が正式名称である。モンズズメバチの写真は死んでいる個体の写真なので、別の種の生体写真がよい。これに代わるものとしては、ハラビロトンボがある。

### 【亀山委員長】

そのとおりである。生体写真の方がよいので、差替えるように。

### 【森川委員】

資料2のP31について、「草地ではチガヤやススキを餌とするショウリョウバッタモドキやクルマバッタ、ギンイチモンジセセリといった希少な昆虫類、～」とあるが、ギンイチモンジセセリは希少種ではないと思うので、ギンイチモンジセセリとヤホシホソマダラを入れ替えた方がよい。キハダカノコも希少種であり、多摩川でも日野市の合流地点にしかいない、非常に珍しい種である。また、同ページの生きもの写真の紹介に「河川で見られる昆虫類」とあるが、河川ではなく「河川敷」が正しい。

資料2のP39について、「現地調査から得られた生きものの特徴」に「ヘラクヌギカメムシ」とあるが、一般的には「クヌギカメムシ」である。

資料2のP40について、「生息環境区分3：低水敷の落葉樹林」とあるが、これは低水敷ではなく、高水敷ではないか。低水敷は川から近く一段低いところであり、落葉樹林は高水敷にある。「現地調査から得られた生きものの特徴」の文中に「昆虫類は樹林で生活するトンボ類、～」

とあるが、トンボ類はそれほど樹林性ではないので、「樹林で生活するコウチュウ類」とするとよい。さらに、続いて「マメ科を食草とするホシハラビロヘリカメムシとマルカメムシ、～」とあり、2種類ともカメムシの仲間である。「ホシハラビロヘリカメムシ」よりは「マルカメムシ」の方が一般的である。「ホシハラビロヘリカメムシ」は、マメ科を食草とする「オジロアシナガゾウムシ」とした方がより一般的である。

資料2のP42について、とうかん森のムクノキは切られている可能性があるので、確認が必要である。

資料2のP44について、「外来植物の繁茂」にある「礫河原の再生地」は「礫河原の再生工事による」という表現にした方が分かりやすい。

資料2のP46について、「現地調査から得られた生きものの特徴」に「水辺を生息環境として好むヤチスズ、ハネナガイナゴのほか、植栽樹木の害虫であるミノウスバが確認された。」とあるが、植栽樹木とはなにを意味しているのか。ミノウスバはマユミやマサキにつくが、それが植栽樹木なのか。

**【亀山委員長】**

細かい部分は相談して修正するように。

**【片山委員】**

資料2のP32のミナミメダカについて、ブラックバスやブルーギルは外来種と表示しているが、ミナミメダカも国内外来種などの表示が必要ではないか。

**【亀山委員長】**

先ほどの井上委員の話のとおり、ミナミメダカは「野生メダカ」とするため、記載を改める必要はない。

**【鶴田委員】**

メダカは放流している人もいる。程久保川にはヒメダカもおり、ほとんど放流されたメダカである。メダカは全国的に遺伝的攪乱が問題になっているので、メダカは載せない方がよい。

**【亀山委員長】**

メダカは書かないこととする。別の種を載せるように。

**【鶴田委員】**

カジカは、自分が子供の頃には浅川の水量が多かったので生息していた。最近は水量が少ない上に、夏は31度まで水温が上がる。2014年くらいから雨で上流から流されてきた個体が見られているが、稚魚は見えていない。生息するということは世代交代が条件であるので、カジカは載せない方がよいのではないか。

**【亀山委員長】**

カジカの写真は別の種に変更するように。

**【中西委員】**

カワムツは、もともと東日本にはいなかった種で、国内外来種である。この問題についてはこれまで委員会で議論したことはあるか。

**【亀山委員長】**

ない。

【中西委員】

国内外来種は外来種と書いている。メダカは放流しているので掲載しないことになったが、カワムツも琵琶湖産のアユと一緒に入ってきたものであり、他の在来種と同列に扱ってよいのか。国内外来種と表示するなどの検討が必要ではないか。

【鶴田委員】

カワムツは、最近では最も生息数が多い魚である。用水でも写真を撮ると7～8割はカワムツである。だから、カワムツを入れることについては賛成である。ただし、国内外来種の記載はあった方がよい。

【井上委員】

日野市に昔からいたアブラハヤでもよい。昔から見られる日野市の在来種は、アユとホトケドジョウしか載っていない。ギンブナとアブラハヤなどを入れてもよい。

【亀山委員長】

ウグイはいないのか。

【井上委員】

いると思う。ウグイとアブラハヤとギンブナは、昔から慣れ親しんだ魚である。これを追加したらよいのではないか。

【亀山委員長】

メダカとカジカが掲載されないので、もう2種の選定が必要である。

◎取組の体系、行動計画（資料2：P53～72、73～80）

※事務局より資料2および参考資料2に基づき説明。

【片山委員】

資料2のP57について、「各主体の役割」に「市のシンボルとなる魚・昆虫を検討します」とあるが、分かりにくいので「市の魚・昆虫の指定を検討します」などの表現がよいのではないか。

【亀山委員長】

「市のシンボルとなる日野市の魚や日野市の昆虫～」という表現にすればよい。

【井上委員】

江戸前アユについては、前回坂本委員から話があったが、新編武蔵風土記稿や多摩市史などには、郡上アユ、上納アユ、御料アユ、献上アユ、御祭アユなどの表現が使われている。日野で獲れたアユであれば郡上アユになると思うが一般的ではないので、献上アユや上納アユがよいのではないか。

【亀山委員長】

献上アユがよい。

【中西委員】

「各主体の役割」は「役割」よりも「取組」の方がよい。役割の中に細かい取組の内容が書いてあるので、(1)を「取組の方向」にしてはどうか。

【亀山委員長】

資料 2 の P53 に合わせると (1) が「取組の方向」、(3) が「各主体の取組」となる。

◎重点プロジェクト (資料 2 : P82~85)

※事務局より資料 2 および参考資料 2 に基づき説明。

【井上委員】

資料 2 の P84 の重点プロジェクト 5 について、「対応する行動計画」に「5-2-6 生きもの豊かなモデル地区」とあるが、内容が分かりにくい。「生きもの豊富モデル地区」などの表現や重点プロジェクト 6 の「スケジュール」にある「生きもの保全モデル地区」であれば意味が分かる。

【亀山委員長】

修正するように。

資料 2 の P82 の重点プロジェクト 2 は、内容が分かりにくい。カワセミエコミュージアムとカワセミハウスをコアとしたエコミュージアムはどう違うのか。

【事務局】

カワセミハウスの一つの事業としてカワセミエコミュージアムがあり、今すでに SNS が立ち上がっている。カワセミエコミュージアムの拠点のカワセミハウスである。

【亀山委員長】

分かりやすい文章にするように。

資料 2 の P84 の重点プロジェクト 5 について、日野市の湧水は以前から調査されており、どこの水がどう出てきているかは分かっている。現在の内容は、雨水浸透すると湧水が増えるような印象を受ける。「スケジュール」に「広域的な湧水の保全方法の検討」とあるが、雨水浸透すると湧水が保全されるわけではないのではないのか。

【小倉委員】

浅川には伏流水と雨水の浸透と、その 2 つの考え方が市の報告書では併記されている。

【亀山委員長】

市の報告と矛盾しないようにする必要がある。今まで小倉委員にご指導いただいて、湧水を調べてきた内容を書いた方がよい。

【事務局】

承知した。ここで伝えたかったことは、湧き出ている場所を、柵で囲うなどしてその場所だけを守っても意味がなく、市域全体で考えなくてはいけないということである。浅川起源のことや表層からの雨水浸透を含めてきちんと書くようにする。

【鶴田委員】

現在日野市ではどのくらいの湧水が残されているのか。

【事務局】

約 200 か所である。

【鶴田委員】

2 年前の調査から湧水の調査地点が減っているので、過去と現在の比較ができないのではないのか。今後、過去の調査地点を踏襲して調査をする予定はあるのか。

**【事務局】**

今年度から、調査方法を以前と同じ方法にしている。この件については、小倉先生からもご指摘いただいております、環境審議会でも指摘があった。従来の調査地点数まで戻ってはいないが、今年度から年1回は調査を実施する。

**【高木委員】**

現状で湧水は133か所である。何年も枯渇している湧水もあり、そこは見直す必要がある。

**【小倉委員】**

最新の環境白書では127か所である。

**【森川委員】**

黒川清流公園には湧水がたくさんある。その上の多摩平に大きなマンションを建てる計画があると聞いている。もし建設された場合の影響は調査するのか。

**【高木委員】**

これから業者と話をしていく段階である。調査については未定である。

**【井上委員】**

雨水浸透の方法で交渉するのか。

**【高木委員】**

杭の打ち方など、建て方である。

**【亀山委員長】**

杭の長さによっては、地下水を分断することになる。湧水の深さは比較的浅いので、長い杭を打つと湧水が枯れる可能性がある。そのため、どのような基礎にするかは重要である。

**【鶴田委員】**

黒川清流公園は8か所の湧水があるが、2つは最近枯れ気味であり、今後検討が必要と思われる。

**【亀山委員長】**

全体について、他に意見はあるか。

**【森川委員】**

資料2のP24の表2-4「文献調査で確認された生きものの結果」を見ると、修正前と修正後で内容が同じである。追加した文献の内容が反映されていないのではないか。自分もいくつか文献を提供したが、それが反映されていない。

**【事務局】**

データは現在取りまとめ中で、いただいた情報はデータ化の作業中である。

**【篠田委員】**

資料2のP25～34の生きものの写真の「外来種」という文字が見にくい。また、在来種と一緒にの枠に囲まれていると、外来種という言葉になじみのない人が読んだ場合に、仲間のイメージを持たれるのではないか。

**【亀山委員長】**

分かりやすくするように。

**【篠田委員】**

外来種による悪影響が説明されていないので、日野市にいてもよいと思われかねない。これについて説明があると、興味の入り口になるのではないか。

**【亀山委員長】**

疑問に思ったら自分で調べる姿勢も必要である。

**日野市生物多様性ホットスポットマップについて**

※事務局より資料3に基づき説明。

**【井上委員】**

資料3の図には、用水の始まりが青色の丸になっているが、これは取入口のことか。

**【事務局】**

そうである。

**【井上委員】**

日野用水の取入口は多摩川の平堰で、図の左上の川幅が広がっているところである。川でないと取入口があるのはおかしい。平堰まで線を伸ばすのが正しい。

**【亀山委員長】**

そのとおりである。修正するように。

**【事務局】**

資料3の図のように、生物多様性の保全上重要な場所をある程度地図化しておく、法的な拘束力はないが、このような場所は日野市の市民にとって重要な場所であり、開発行為がある場合には十分な配慮と調査が必要であるという意思表示になる。さらに、重点プロジェクトを進めていく中で、実際にこういった場所を保護エリアにするなど、検討を進めることが可能である。

**【森川委員】**

日野市で最も自然が残っているのは多摩川の河川敷である。他の地域の人でも多摩川の河川敷の重要性や、植物と昆虫などそこでしか見られない生きものが多いことをよく知っている。市としても保全を進めてほしい。

**【鶴田委員】**

「17：多摩大橋下流部右岸」は平成14年に国交省が地面を平ら整地した場所である。そのような場所を生物多様性のホットスポットとして指定するのか。もし指定するなら、「17：多摩大橋下流部右岸」より下流の谷地川との間にある樹林ではないか。

**【井上委員】**

人為的な改変によって環境が悪化したということと、生きものの生息環境として改善しなくてはならないという、よくない現状を示している。

**【鶴田委員】**

先ほどハラビロトンボの話があったが、工事以降見られなくなった。いるとすれば谷地川との合流地点にしかいないはずで、あまり見られないトンボを掲載するかは検討が必要である。

**【亀山委員長】**



「17：多摩大橋下流部右岸」を選んだのは生態系保持空間であるからか。

【事務局】

そうである。

【亀山委員長】

ホットスポットでなくなったのであれば、削除することも考えられる。

【高木委員】

生態系保持空間であることには変わらない。現在は維持管理手法を試行錯誤している段階である。今後も自然環境を守っていこうというスタンスは河川管理者も持っているはずである。

【亀山委員長】

対策をきちんとやってもらうという意味でもホットスポットとしておく。

【井上委員】

開発によって環境が悪化した場所も認識しておかなければ、生物多様性の保全に結びつかない。よいところと悪いところと、どちらも載せてよいのではないか。

【中西委員】

「17：多摩大橋下流部右岸」は国交省が自然再生として、攪乱を起こして河原の再生をしようとした場所である。その位置づけを説明した方がよい。

【事務局】

現状を書くことにする。

【中西委員】

「その他の日野市らしい自然環境」は、ピックアップした理由を丁寧に説明した方がよい。

【井上委員】

「17：多摩大橋下流部右岸」は審査委員会で工事の是非について議論を重ねていたが、工事範囲全域の自然環境調査や、周辺区域への影響を調査せずに工事をしている。そこ自体がすでに問題であり、どうして工事を着工したのか興味を持つところである。工事については生物多様性の観点で議論をしていく時代になっている。生物多様性をどうやって保全していくのか、改善していくのか、そういう観点で地域戦略を書かなくてはいけないと思う。

【中西委員】

そうであれば、本来は施策の中に、議論が必要であることを書いていかななくてはいけない。

【井上委員】

08 空間については、生態学の専門家を複数入れて議論しなければ工事の妥当性が正しく審議されない。その欠陥状態をなくすことが、最も初めにやらなくてはいけないことである。

【亀山委員長】

それを地域戦略に書き込むことは難しい。

【高木委員】

礫河原の再生を行っているが、洪水の攪乱が起きない場所で礫河原を作って意味があるのかという疑問もある。必ずしも今の状態がよいとは自分も思っていない。このような委員会を使ってよい方向に導けられればよい。

【鶴田委員】

多摩川では平成 14 年にも礫河原を作ったが、維持できなかった。

【亀山委員長】

それは仕方のないことである。十数年前に多摩川で観測史上 2 番目の出水があったが、水が軽いため河床はほとんど影響を受けなかった。昔は、砂礫を含んで水が流れるので、洪水の時は水が重かった。現在の河川の状態では礫河原は生まれない。そのことを前提に考える必要がある。

【事務局】

ホットスポットマップは地域戦略に掲載するというのでよいか。

【亀山委員長】

よい。

「18：多摩平の森」が「関東地方では貴重なモミ林」は「武蔵野台地では」とするのが正確である。

【井上委員】

「17：多摩大橋下流部右岸」は、単に生態系保持空間とするよりも、「08 空間」としないと分からない。

【高木委員】

それは市民には分かりにくい。

【井上委員】

それならば、後ろに説明を加えた方がよい。

【森川委員】

生態系保持空間は、国交省に指定された年度を入れた方がよい。

【事務局】

承知した。今後これらの場所で開発などが検討された場合に、ここは開発を避けるべきであると思っただけのような書き方にする。

【亀山委員長】

ホットスポットマップで、日野市の生物多様性にとって重要な場所を示しておく、例えば先ほどのように斜面の上にマンションを建てる時に抑止力になる。

## 生物多様性地域戦略の名称について

※事務局より資料 4 に基づき説明。

【事務局】

名称は資料 4 の中にもないものでも構わない。この場で意見をいただき、決定したい。

【亀山委員長】

パブリックコメントに今回決めた名称を使うのか。

【事務局】

そうである。

【井上委員】

自分は小学校に川の授業や虫取りなどの環境教育の支援を行っている。また、どんぐりクラ

ブでは年間 7000～8000 人の子供たちの環境学習サポートをしているが、子供たちは生きものや虫取りには非常に反応がよい。「⑧ひの生きものいっぱい計画」は、子供たちの反応が最もよいと思われ、未来に託すという意味合いもあるので「⑧ひの生きものいっぱい計画」がよいと思う。

【鶴田委員】

現実に日野市内は生きものの生息環境として厳しい状況の場所が増えているので、未来を託すという意味では井上委員の意見に賛成である。

【片山委員】

自分は「⑨日野市いきものみらいプロジェクト」と「⑩いきものみらいプロジェクト日野」を提案したのだが、プランではなくプロジェクトという言葉を使っている。プロジェクトの方が、実際に実行していくという印象がある。井上委員の意見も「ひの生きものいっぱいプロジェクト」でよいと思う。

【亀山委員長】

正式名称は地域戦略となっている。計画、プラン、プロジェクトはつけなくてもよい。

【片山委員】

表記としてはどうなるのか。地域戦略の副題的な形でこれらの名称がつくのか。

【亀山委員長】

正式名称は地域戦略で、その愛称を決めるのではないのか。

【事務局】

正式名称は地域戦略であるが、基本的には今日決定する名称が使われる。

【中西委員】

プロジェクトやプランという言葉を入れた方が、何を指しているものかは分かりやすい。

【事務局】

なぜ戦略という言葉を使っているかを大事にしてほしい。プランを運用していきながら将来的にいろんなストラテジーを考える、というところを一つの目標としている。そのため、計画ではなく戦略という言葉を使っている。

【亀山委員長】

そのような説明をする必要があるので、何もつけない方がよいのではないか。

【事務局】

亀山委員長が言うように日野市生物多様性地域戦略という正式名称があるが、実際には愛称が使われるのであれば、より市民に分かりやすく、親しみやすいものがよい。

【片山委員】

「生きものいっぱい」というのはストレートで分かりやすい。

【中西委員】

「生きものいっぱい」もよいが、単に種数が多ければよいということではない。生きものの本来あるべき姿を取り戻しましょうという話である。生きもののあり方をプランニングするという意味で、短く簡単に「⑥ひの生きものプラン」くらいがよいと思う。

【濱田委員】

自分も賛成である。あまり余計なことを入れない方がよい。

**【事務局】**

あまり興味のない人が見たときにも、自分たちが関係していることを理解してもらいたいという思いもある。

**【中西委員】**

逆にそういう言葉を削ることで、どんなことが書いてあるのか興味を持ってもらえたらよい。入れたい言葉はどんどん積み重なって雪だるま式に長くなっていく。

**【亀山委員長】**

庁内では意見はないのか。

**【事務局】**

庁内での議論はしていない。今日意見をいただき、第一候補として明日の環境審議会に上げ、パブリックコメントに出してよいか審議を行う。

**【濱田委員】**

名称の案は複数でもよいのか。

**【事務局】**

ひとつに絞りたい。

**【亀山委員長】**

「1. ひの生きものプラン」と「2. ひの生きものいっぱいプラン」と「3. ひの生きものいっぱいプロジェクト」で多数決をとる。

⇒1回目 1：12名 2：4名 3：11名 ⇒2回目 1：14名 3：13名

「ひの生きものプラン」とする。

**その他**

**【事務局】**

パブリックコメントは、広報11月1日に掲載予定である。今回の資料2で確認した案を、11月1日から約2週間、図書館などで閲覧できる状態にして広く市民の皆様にご意見をいただく。

第10回委員会は1月16日（火）、18時から開催する。場所は決まり次第周知するが、日野宿交流館かカワセミハウスとなる。

以上